

# ウパシタ<sup>®</sup>を 使用される 患者さんへ

監修：藤田医科大学ばんだね病院 副院長 内科学講座 主任教授 稲熊 大城先生

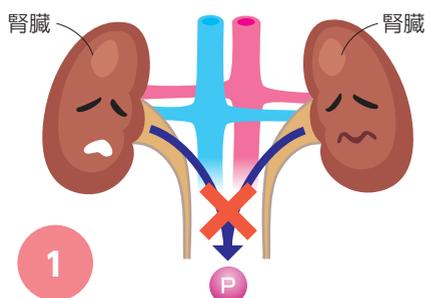
ウパシタ<sup>®</sup>は血液透析患者さんの、  
「二次性副甲状腺機能亢進症(SHPT)」  
の治療に使うお薬です。



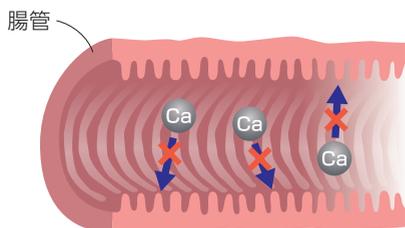
# 二次性副甲状腺機能亢進症 (SHPT)とは

SHPT: Secondary hyperparathyroidism

二次性副甲状腺機能亢進症は、腎臓の働きの低下が原因で、副甲状腺からのホルモン (PTH) の分泌が過剰になり、血液中のカルシウムやリンの濃度のバランスが乱れ、骨折や心臓病などさまざまな病気を招きます。



腎機能が低下すると、尿からのリン (P) 排泄が減少し、血中のリン濃度が上昇します。

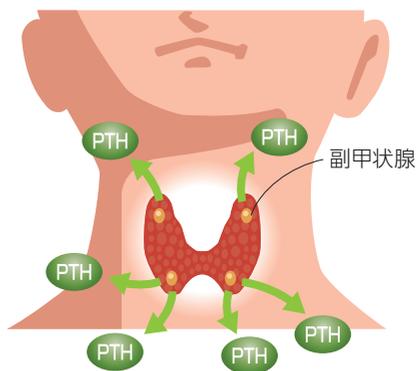


また、腎機能の低下はビタミンD活性化を低下させるため、腸管からのカルシウム (Ca) 吸収が低下し、血中のカルシウム濃度が減少します。

- P リン
- Ca カルシウム
- PTH 副甲状腺ホルモン

3

血中のリンが増加し、カルシウムが減少すると、副甲状腺から大量の副甲状腺ホルモン (PTH) が分泌されるようになります。

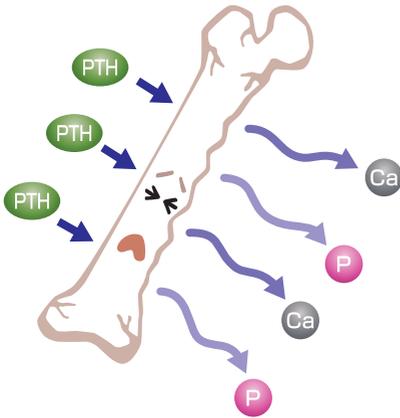


P ↑ Ca ↓

P ↑ Ca ↓ PTH ↑

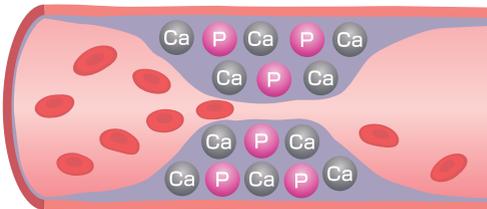
4

副甲状腺からの大量の副甲状腺ホルモン(PTH)分泌が長く続くと、骨からリンやカルシウムが溶け出し、骨が脆くなり、骨折など骨の病気をきたしやすくなります。



5

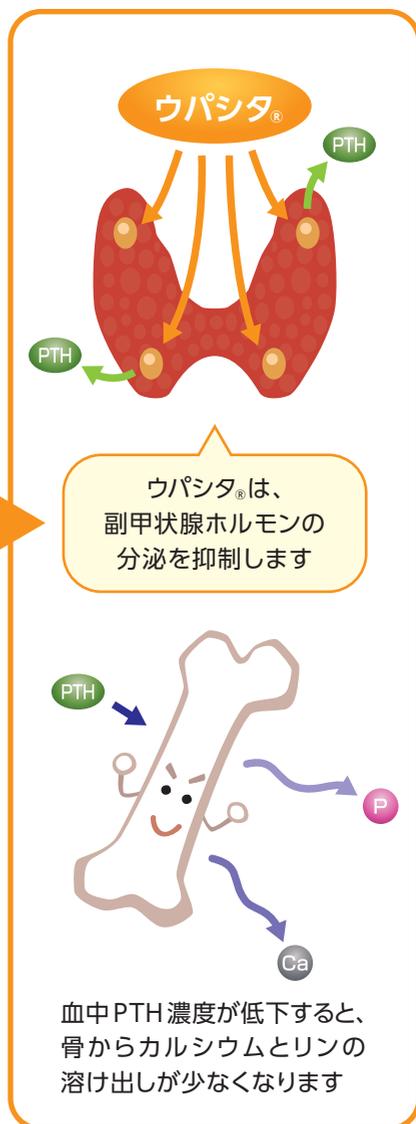
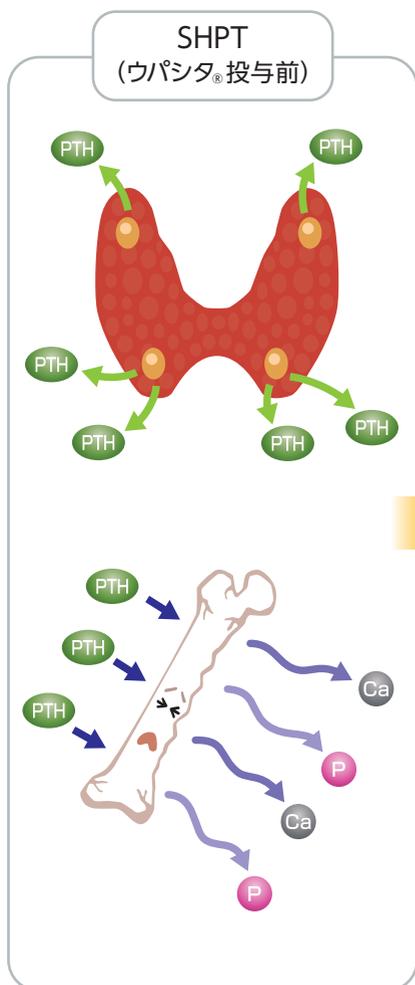
また、過剰になったカルシウムならびにリンが血管に沈着することで、血管が硬くなり、心臓病や脳卒中の原因となります。これを「血管石灰化(けっかんせっかいか)」といいます。



P ↑ Ca ↑ PTH ↑

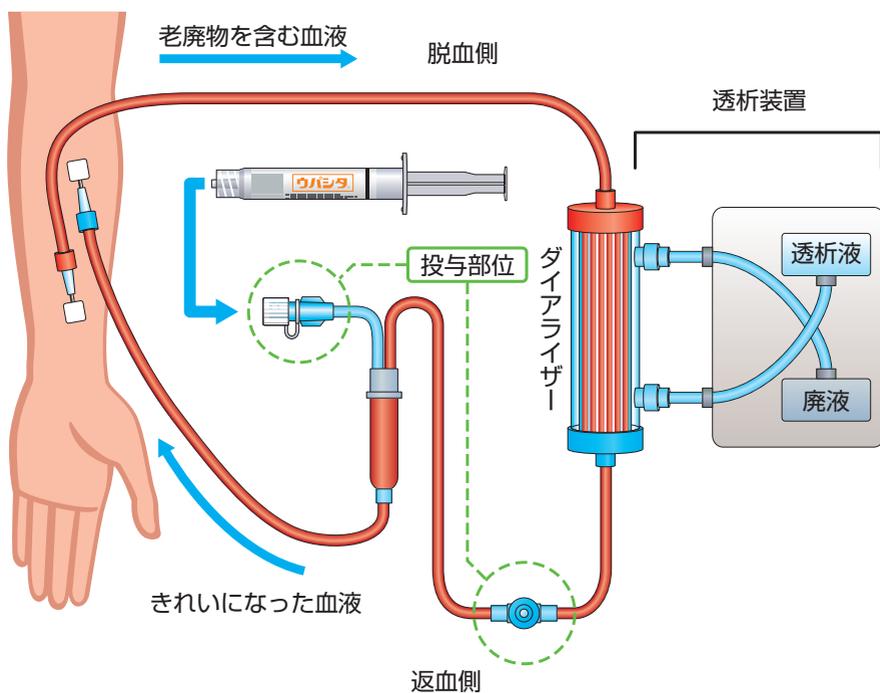
# ウパシタ®の働き

ウパシタ®は副甲状腺に働いて副甲状腺ホルモン(PTH)の分泌を抑制することで、血中PTH濃度を低下させます。



# ウパシタ<sup>®</sup>の投与について

ウパシタ<sup>®</sup>は、血液透析の終了時に、医療従事者により、透析回路の返血側から投与されます。



# ウパシタ<sup>®</sup>を使う前に 確認すること

他の病気の治療のため、  
下記のお薬を使っている方は、必ず主治医に伝えてください。  
血液中のカルシウム濃度が低くなりすぎる可能性があります。

[骨粗鬆症]

治療薬

デノスマブ

ビスホスホネート系薬剤

選択的エストロゲン  
受容体モジュレーター

カルシトニン

[アレルギー性疾患]

[自己免疫疾患]

[血液疾患]

等に伴う炎症の治療薬

副腎皮質ホルモン

妊婦または妊娠している可能性のある方は、ウパシタ<sup>®</sup>を使用できません。  
ウパシタ<sup>®</sup>投与中およびウパシタ<sup>®</sup>最終投与後に透析を実施した日の翌日まで  
は授乳を避けてください。

## ウパシタ®使用中に 注意すること

ウパシタ®は血液中のカルシウム濃度を低下させる作用があるため、投与後は下記の症状に注意してください。また、その他にも、いつもと違う症状が出た場合は、すみやかに主治医に連絡してください。



手足や身体がしびれる。  
けいれんする。



気分がすぐれない。



脈が乱れる(不整脈)

目の前に何かが飛んでいる  
ように見える。目がかすむ。  
視界の一部が欠ける。



血圧が下がる

他の医療機関を受診する際は、ウパシタ®を投与中であることを、必ず、医師、看護師、または薬剤師にお伝えください。

製造販売元(文献請求先及び問い合わせ先)  
 株式会社 三和化学研究所  
名古屋市東区東外郷町35番地 下461-8631  
●ウェブサイト <https://www.skk-net.com/>

プロモーション提携  
 キッセイ薬品工業株式会社  
松本市芳野19番48号  
<https://www.kissei.co.jp/>  
文献請求先および問い合わせ先  
(文献請求先) くすり相談センター  
東京都文京区小石川3丁目1番3号 TEL 0120-007-622  
(販売情報提供活動問い合わせ先) 0120-115-737